

日本の「田舎」とアメリカの“countryside”

甲府第一高等学校 1年 赤松 明

私はホストファミリーに会う前、私の英語が伝わるのかどうか不安で仕方がなかった。しかし今回、私は自分の英語力やコミュニケーション力を向上させたいと思い、この事業への参加を決意した。“Don't be afraid.”と“Don't be shy.”この言葉は、事前学習会で、会話やプレゼンテーションを行う際、大切だと教わった合言葉だ。この合言葉やホストファミリーがやさしく接して下さったおかげで、私はホストファミリーと沢山の会話をする事ができ、アイオワでの生活を楽しむことができた。英語の実力とコミュニケーション力だけでなく、積極性も身につけられたと思う。

アイオワでのホームステイの中で、特に印象に残っているのは、4日目のホストファミリーと過ごした日だ。朝はダウントウンで行われる、ファーマーズマーケットと呼ばれる朝市に出かけた。そこは観光客や地元の人で賑わっていたのだが、私がとても驚いたのは、ダウントウンの道路を通行止めにするなどして、街全体がこの催しに協力していたところだ。山梨県では甲府駅で「ソライチ」が月1回行われているが、必ずしも「街全体で」という催しではない。こういった催しを積極的に行うことで、人口流出が減少し、山梨県の魅力を発信することができるのだと思う。その後、デモインアートセンターに行き、海外アーティストの作品を鑑賞した。私は美術部に所属しており、現代の海外アーティストの作品に興味があった。様々な作品を鑑賞し、これからの部活動において参考になることを学ぶことができた。さらにホストマザーのご両親にもお会いした。温かく迎えてくださり、昼ご飯をごちそうして下さった。本物の家族のように接して下さったことが本当に嬉しかった。

今回のプログラム全体を通して、山梨県が抱える課題について、姉妹都市であるアイオワ州と比較しながら考えることができた。私は、デモインの街並みを見たとき、「田舎」というイメージが日本とアメリカとで異なっていることを感じた。日本では、田舎というとマイナスイメージを持つ人が多い。交通の便が悪い地域、大型商業施設が少ない地域、人口流出が進み、高齢者の割合が増加している地域などといったイメージだ。しかし、デモインの街は、決してそういった街には見えなかった。片側4～5車線の高速道路や、郊外の大型商業施設、ダウントウンと呼ばれる中心街などを見ると、人々が暮らしやすい施設が整備されていると感じた。「暮らしやすい街をつくること」こそ、今の山梨県に求められていることだと考えた。また、地域のために貢献したいと思う気持ちが以前よりも強くなった。課題解決のために私たちができることを考え、これからの山梨県全体の活性化に繋げていきたい。

私はアイオワ州でとても有意義な時間を過ごすことができた。この経験をこれからの生活に生かし、さらなる高みを目指したい。



目を、脳を増やす体験

甲府第一高等学校 1年 石田 萌々

私はアイオワと山梨に共通する社会課題として人口減少、農業の衰退を挙げている。現地で差異を肌で感じられたことで社会課題に対する興味は一層深まったと感じている。現地の方々の話から、山梨の農業の衰退の要因は農業従事者の減少にある一方で、アイオワでの要因は機械化によるものだと分かった。大規模な農業により大型機械が使用されたことで人手を必要としなくなった結果、農業の衰退が進んでいるようだ。また、私はファーマーズマーケットや酪農フェスタを訪れた。そこは多くの観光客で賑わっており、農業に多くの関心が向けられていることを実感した。山梨に足りない部分はそこであり、そこに対するアプローチが必要であると感じた。

この研修の中では言語が異なる人と話す機会も多くあった。自分の英語が伝わらない時もあったが、多くの場合、ジェスチャーや画像を見せるなどすると伝わった。そのことから、言うまでもなく言語は大切であるが、それ以上に伝えようとする意思、理解しようとする気持ちがあればコミュニケーションは十分に成立することを感じた。

また留学中のプログラムのなかでアイオワと山梨の社会課題について討議したりプレゼンテーションをしたりする機会があった。そこでは私が予期しない解決策を多く発見し問題を解決するには様々な視点から考える必要があると感じた。

そしてこのプログラムの大きな特徴としてホームステイが挙げられる。現地の方々の生活を共有することで、アメリカ人の文化や価値観を肌で感じることができた。そこから、日本人は興趣を重んじて適度な量を大切にする一方で、アメリカ人はとにかくスケールの大きなものを好む文化があると感じた。私のホームステイ先ではピザパーティーやマッシュマロパーティーなどが毎晩のように開かれていた。またケーキなどに代表されるが、味も例外でなく濃いものが多い。砂糖を大量に使い、その装飾も色鮮やかである。日本の文化とアメリカの文化に違いはあるものの、どちらも強みを持っており、相互理解が欠かせない。日本の特徴である奥ゆかしさも素晴らしいがアメリカにおける積極性も取り入れたいものである。

このプログラムは私にとって大きな刺激を受ける機会となった。日本の外から日本を客観的に見たことで自分がいかに狭い世界の中で動き回っているかを知った。もっと広い世界に目を向けて自身を省みる必要がある。このプログラムによって物事を見る際の自分の視点が一つ増えたような心持ちでいる。目がひとつ増えたのか、脳がひとつ増えたのか。今後はそれを発達させていくとともに数を増やしていきたい。そのために常に刺激を追い求めていく姿勢を忘れず、積極的に向かっていきたい。



報告書

甲府第一高等学校 1年 大野 中菜

1 今回この留学プログラムに参加して、自分の中で社会的農業問題に対する関心が以前より高まったように感じています。山梨県とアイオワの共通の社会課題について、私は人口流出と農業の後継者不足の人口問題に焦点を当てました。これまでも学校の授業で農業について学んだことはありましたが、自分の考えを具体的に表すことまで出来ていなかったことに気付かされました。このプログラムで同じグループのメンバーやアイオワの高校生と話し合ったり、現地で見学をしたりする中で身近な問題として捉えられる様になり、自分の考えを深め解決していかなければならないとより強く感じるようになりました。

事前学習の英会話では自分から積極的に話すことができませんでした。実際に現地に行っても会話は聞き取れなくて、ちゃんとした文法で話そうと思うと時間がかかってしまいました。そこで私は留学前にマイケル先生、伊藤先生に言われた「Don't be shy」を思い出しました。それからは恥ずかしがらずどんどん話しかけてみました。自分から話しかけることで現地の人も色々なことを教えてくれ、親切にしてくれました。自分のことも伝えコミュニケーションを取ることが楽しくて、それからも物怖じせず話すことができるようになりました。

私は留学前まで同年代の日本人の考えしか知りませんでした。今回現地の学生や大人の考えを聞いて、自分の考え方が変わったと思います。それは問題や自分の考えを多角度から見ることができるようになったからです。多角度から見て解決していくことは学校でのSGH活動や部活動の中でも大切になってくると思います。これからの活動にも活かしていきたいです。

2 事前学習では英会話の時シチュエーションに合わせて自由に喋るのが難しかったです。初対面の人の前で英語を話すのに緊張してしまい、そのうえ、上級生が多く自分より積極的で私は自分を出せず悔しかったです。失敗を恐れていたなら喋れないと思い、もっと声を出そうと頑張りました。この経験は実際に現地に行ってから気持ちの面でも役に立ちました。また、初対面の仲間と考えを交流し合い話し合っていくことで、こんな考えもあるんだと新たな考えを知る機会となり、自分の考えに取り入れていくことに繋がりました。

現地について一番初めに日本と全然違う空気と人の感覚を感じ驚きました。農業に関する施設をまわり、アイオワや世界の農業の歴史やアメリカ人の意見を見聞きすることで、日本との違いや新しく取り組むべき課題を見つけました。説明が英語だったために内容を全て理解することができなかつたのは残念でしたが、知りたいと思ったことをインターネットで調べたり仲間に聞いたりして自分の成長にすることができました。

私はホストファミリーとの対面の時にとっても緊張していた私に気を使って家に向かう車

の中でホストファミリーの方がたくさん話しかけてくれましたが、私はそれに応えるだけになってしまっていました。そんな状態から始めて不安でしたが、ゆっくりでやさしい英語で喋ってくれたおかげで徐々に慣れ、一緒に遊びに出かけて仲良くなりました。家で過ごす時間もとても楽しかったです。今回お世話になることができよかったです。



point of view

甲府第一高等学校 1年 佐藤 文哉

「俺の住んでた世界って小さいな」

帰国後、甲府行の中央線に揺られながら、私はそんなことを考えていた。言われてみれば当然のことなのだが、以前の私は、自分の知っていた世界、つまり自分の中の世界という小さな括りでしか物事を捉えられていなかった。しかし今の私は、自分の外にも世界が広がっているという発想を持っている。自分で言うのもなんだが、これはとても大きな進歩、成長だと思う。なぜなら私は、新たな“point of view”,つまり「視点」を獲得したに違いないからだ。センター試験の廃止に代表されるように、今後私たちには知識ではなく自ら考える力が求められている。その中で、多様な視点というものは、答えを導くプロセスにおいて非常に重要だと私は考えている。だからこそ、視点の獲得は進歩、成長だと思う。今回は、そんな「視点」をテーマに、掛け替えのない8日間を振り返ってみた。

(1) 変化

アイオワでの経験を通し、農業に限らず、様々な産業の様々な形態を学ぶことが出来た。それにより、日本や山梨の常識は世界の非常識であるという「視点」を得る事が出来た。例えば、日本では農作物は小規模経営の農家が生産するケースが圧倒的に多いが、アメリカでは辺り一面がトウモロコシ畑で、動いているのは大きなトラクターが一台という風景をよく見かけた。地理の授業でも学習したことだが、実際は自分の想像していたものと全く異なっていて、百聞は一見に如かずということを感じた。この視点は、社会課題に対する興味、問題解決力の両テーマに生きてくると考えている。

コミュニケーション力は、今回の経験の中で一番の進歩だと感じている。“Don't be shy” “Don't be afraid to make mistakes”の精神で暇さえあれば会話していた。単語がわからなければ言い換え、それも通じなければボディランゲージと、とにかくコミュニケーションを取ろうと必死だった。スピーキング力もリスニング力も語彙力も乏しく、自分の勉強不足を感じたが、その分コミュニケーション力は大きく伸びたと思う。

(2) 感想

事前学習会では、前述した2つの精神を学べたことが、大きな収穫だったように思う。また、プレゼンテーションの作り方、効果的な発表法についても学べたことも新たな知識として役に立った。私は甲府第一高校の探究科に所属しており、今後は英語でプレゼンテーションを行う機会も多いので、これらの「視点」を大切にしながらさらに磨いていきたい。

留学中のプログラムでは、州議会議事堂から農場まで様々な場所を実地調査し、知見を深める事が出来た。自分の未知の世界を肌で触れて感じることで、知識的にも感性的にも

多くのものを得ることができ、「視点」が明らかに増えたと感じている。また、英語でのディスカッションやプレゼンテーション作りは、当然難易度が高く、大変な部分もあったが、全体を通してみればよい経験になった。

ホームステイでは、コミュニケーション力を中心に、自分のすべての力を試すことができた。観光はもちろん、毎日の食事、ホストブラザーのイアンと語り合った夜、ホストファミリーと共有した時間すべてが新しい経験であり、多くの「視点」を与えてくれた。

最後に、この素晴らしい8日間を実現して下さった県職員の方々、高校の先生方、両親、そして共に学んだ19人の先輩方や友人、関わった全ての方々に感謝して、今回の報告とする。



アイオワ留学で学んだこと

甲府第一高等学校 1年 藤本 ゆりか

今回のプログラムで体験したことの多くは、私にとって初めてで新鮮なものばかりだった。私は、中学生の時から、外国に行って異文化に触れてみたいと思っていた。ところが、実際に行ってみると、頭ではわかったつもりになっていた異文化や言葉の違いに戸惑ったり驚いたり連続だった。しかし、それらを通して自分が得たものも沢山ある。

私は、英語で会話をすることに慣れておらず、あまり積極的になれていなかった。ホームステイ先でも先輩に頼ってしまうこともあったが、会話がしたいと思い、英語を使った。私のつたない英語でも、聞こうとしてくれ、会話できたときはとても楽しかった。留学中、事前学習会でも教わった Don't be shy! を意識して生活していたが、これからも、Don't be shy!の精神で沢山英語を使っていきたいと思う。

また、山梨県とアイオワ州は、農業が盛んであることなどの共通点や、人口流出などの共通課題があった。しかし、一口に共通課題と言っても、山梨とアイオワでは、もともとの人口や環境が違う。実際に、アイオワの人口が少ないとは感じられなかったため、同じ課題でも、国や地域によって解決策は違うのではないのかと思った。私は本プログラムを通して、日本や世界の社会課題に深く興味を持つことができた。

そして、アイオワ滞在中のホームステイでは、生のアメリカの文化に触れることができた。食文化や生活習慣など、日本とは、まるで違い、日本ではできない貴重な体験ができた。特に私のホストファミリーは子供が多いこともあり、家の芝生で遊んだり、一緒にアイスを食べたりと、普通の生活を経験でき、とても有意義な五日間だった。

また、日中の様々な場所に行くプログラムの中で一番印象に残っているのは、マコーリーテラスという現地の老人ホームを訪れたことだ。私は、おじいさんと一対一で話をしたり、折り紙を作ったりした。私の英語が伝わらなかったこともあったが、筆談を交えてなんとか会話をすることができた。また、私が折り紙を作ると喜んでくれたことが、とても嬉しかった。

私は、今回のプログラムを通し、英語を話す楽しさや大切さを感じたり、社会課題への関心や自分で問題を解決するため力を高めたりすることができたと思う。また、これらの収穫があったのは、現地へ行く前の事前学習会のおかげだとも思っている。事前に、仲間との親睦を深めたり、プレゼンや英語の練習をしたりしたことで、現地でより多くのことを吸収できたと思う。今回、アイオワで学び、感じたことは、これからの生活に大いに役立つだろう。これをきっかけにグローバル人材となれるよう生活をしていきたい。



成長の8日間

甲府第一高等学校 1年 望月 美由子

"Don't be shy, and Don't be afraid to make mistakes." 事前学習で ALT の先生から最初に言われたこの言葉は、7日間の留学の間、様々な場面で私の背中を押してくれました。

この留学を通して私が強く感じたのは「英語を発する」ということへの感覚の変化です。聞こえてくる言葉は全て英語、体の大きなアメリカ人たちが私たちの横を通っていく。海外渡航は今回が初めてだった私は、そんな当たり前なのにさえいちいち感動し、ただただ周りを見渡すことしかできませんでした。ホストファミリーとの会話をするときも、知っている範囲の文法と単語でも伝えられることはたくさんあるのにいざ話そうとしてもなかなか出てこず、とても悔しい思いをしました。しかしこのままではダメだと事前学習での言葉を思い出し、どんなに簡単な単語でも、文法的に間違っただけの言い方でも、英語だらけの環境で自分も英語を発してみようということに何回も挑戦しました。すると、相手は私の拙い英語を一生懸命聞き取り理解してくれて、あの言葉通り恥ずかしがらず、失敗を恐れず、まずはなんでもやってみることが大切なのだと改めて実感した体験でした。少しの勇気で私のコミュニケーション能力はこの7日間で大きく変化させることができたと思います。

現地でのプログラムはどれも興味深いものばかりで、行く場所それぞれで吸収できることがたくさんありました。私たちがアイオワ州と山梨県の共通の社会課題としてあげたのは「人口減少」。その改善策として私たちのグループは、「農業の企業化」と「大学との連携」を提案しました。現地の高校生やヤングプロフェッショナルの方とのディスカッションにおいて、山梨からの視点しか持っていなかった私たちには考えつかなかったことがたくさんあり、多くの新たな視点を得ることができました。課題を解決する力の変化はこの7日間だけではわかりませんが、解決するために自ら行動する力は身に付けることができたと思います。また、社会課題に対しても今までより、より広い視野で考えられるようになり、山梨の他の課題にも向き合ってみたいと思えるようになりました。偶然一緒になった4人だけけれど、このグループで最後までプレゼンを完成させることができたのは本当にうれしく、大きな成果を得ることができたと思います。

夏休みのたった8日間ですが、多くの人に支えられて大きな体験ができたこの時間は私にとって今までにない、とても特別で大切な最高の時間となりました。今度はここでの成果を発信していくことが私たちの役目です。学んだことを最大限に活かせるようこれからの学校での活動でも頑張りたいと思います。そして、今よりもっともっと大きくなった姿でもう一度あの場所に戻れるよう努力していきたいです。



グローバル人材育成プログラムを終えて

甲府西高等学校 2年 小宮山 未結

(1) 今回、実際にアイオワ州へ滞在し様々な場所を見学し、現地の方の話を聞く中で多くの社会課題を発見した。その中でもやはり「人口減少」という問題が大きな課題となっていることがわかった。山梨県と共通の課題であり、留学前まで人口減少があることは知っていたがこれほど大きな課題となっているとは想像していなかった。他人事で済ませてはいけないと痛感した。今、私にできることはこの問題に対しての知識を増やすことだと考えた。新聞などのマスメディアから多くの情報を得て、将来活かせる場面で活用したい。

当初は緊張してしまい、自分からホストファミリーに話すことができなかった。しかし以前留学した際に積極的にコミュニケーションをとることができず後悔した経験があったため【Don't be shy】を念頭に置き、わからないことなどは自分から聞くことができた。コミュニケーション力は自分から行動することで高めることができると感じ、今回の留学で話を聞く際の相槌の仕方や間の取り方など細部まで見て実践できた。

留学前はわからないことがあっても聞けずに放置してしまうことが多かった。しかし今回の留学では聞かないとわからない状況があったことで人に頼らず自分自身で解決しようと考えが変化した。違う言語で言葉が通じないとしても最も大切なことは「行動すること」だと考え、実践することができた。

(2) 事前学習では他校の人と交流することができた上、それぞれの意見を交換し共有するという貴重な経験ができた。プレゼンテーション作成を通して、より効果的なスライドや伝え方を協力して考え、実践できた。

アイオワ州では、普段入ることができないような場所を見学でき、実際に目で見て、感じて、学ぶことができた。現地の方々の話を聞け、アイオワ州の歴史や特徴などといったことを他言語から学べることに喜びを感じた。また、アイオワ州の自然にも触れることができ、山梨県と共通の豊かな自然を守り続けてもらいたいと思った。さらに、大都会であるロサンゼルスを訪れて街並みや人々の活気に驚き、アイオワ州や山梨県と大きく違う部分を実際に見ることができた。人口流出の原因などが目に見え、それぞれの良さを生かして問題を解決したいと考えた。

スペイン系の方々の家にホームステイさせていただくことになったが食事や文化の違いに戸惑いを隠せなかった。しかし、ホストファミリーの方々が優しい英語で話しかけてく

れた上、細かいところまで配慮していただけたことをとても嬉しく感じた。言葉を交わすことだけがコミュニケーションではないと感じた。辛いこともあったが、同時にホームステイをしたことでコミュニケーションの楽しさを感じることができた。また、弱かった自分自身にリベンジできたと思うことができた。大きな成長を感じられたホームステイだった。



報告書

甲府西高等学校 1年 坂上 輝

(1) 社会課題に対する関心

私の社会課題に対する関心には変化があったと思う。留学前の私の一番興味があった社会課題は、自動車社会であるという山梨県とアイオワ州の共通の課題だった。実際にアイオワ州で自動車・バスで移動して大規模さを感じた。また、ダウンタウンの移動手段として、自転車がおりてあり、興味が深まった。また、アイオワ州の大規模な農業には驚いた。両方とも若者の人口が減っているという課題に対して、いろいろな話を聞き、話して興味を待った。今回アイオワ州と山梨県を比べる機会を得て、解決の糸口を自分なりに考えられた。そのため、もっと広く社会課題に気づき、知識を広げようと思う。

コミュニケーションの力の変化

私が英語による会話で自信を感じたのはホームステイの二日目だった。夜に到着し次の日も一日研修があり、家族全員と会う機会があまりなかった。二日目に二人の兄弟とSKYZONE でいっしょに遊び、夜に花火をした後、日本からのプレゼントを渡したことをきっかけにいろいろなことを話すことができた。ホームステイを通して、私は英語をよく聞き取り、伝える力をつけられたと思う。

問題を解決する力の変化

私はこのプログラムで問題に気付く力、解を探す力を育てられたと思う。社会課題に対する関心も大きくなったことで、今まで興味がなかったニュースを見るようになってきた。そして、話し合いによるいろいろな意見の出し合いや、専門家による話、参考となるような場所に行く、比べる、どれもこのプログラムで学べた解決法だ。有意義なプログラムへの参加となった。

(2) 事前学習会

事前学習のレポート段階で自分が興味を持った交通（自動車社会）について調べていたため、ホームステイでも話せる話題となった。プレゼンテーションの内容作成のために、農業についてアイオワ州のことを調べたが、上手く資料を集めることができなかった。日本で班員といろいろな調べた内容について話し合い、自分たちなりに解決策を見つけたが、現地でそれを大きく変えることになった。アイオワ州での研修や、現地の学生との交流により多くの情報を得ることができ、判断力が養えた。

留学中のプログラム

まずアイオワ州の大きさに驚かされた。ホームステイ中の移動でも車移動で土地の大きさと、自動車社会の大規模さが分かった。田舎のほうにバッファローを見に行ったときは、のびのびとした草原が広がっていた。自動車道の隣にもトウモロコシ畑があり、農業に秀でているのが分かった。いろいろなところで普段できないことができ、楽しかった。

ホームステイ

ホストマザーが車の中でいろいろな話をしてくれた。話しやすい英語を使ってくれたり、私の英語を正してくれたり、優しかった。対して、兄弟二人は容赦ない英語で話しかけてきて、慣れないうちは大変だったが、一緒に遊んで、楽しくなった。三人で夜はゲームをして、知っているものも、やったことのないものも一緒に楽しめた。不安もあったが、とても楽しく過ごせた。これからも、手紙などで連絡を取り合おうと思う。



アイオワで生まれた「変化」

甲府西高等学校 2年 丹沢 美結

世界に対する考え方。

やはりこれが一番の変化だと思う。大袈裟な言い方かもしれないが、実際に現地へ行って、アメリカの空気を肌で感じて、自分の中に生まれた変化はこれだと思う。

この留学はただ英語力を向上させることが目的ではなかった。山梨県と、姉妹州であるアイオワ州とに共通する社会課題の解決策を話し合い、最後にプレゼンするという目的があった。そのプレゼンに向けて様々な材料を集めるために、色々な方のお話を聞いたり、施設を回ったりした。話を聞いていくうちに、自分が思っていたよりもたくさんの共通課題があることに気付いた。遠く離れたアメリカ・アイオワにも山梨と同じ現象が起こっているのだなと知り、それと同時に、どの国や地域にも課題が存在していて、何らかの点で共通しているのだなと知った。今まで何気なく流して見てきた世界のニュースにも少し関心を持って見てみようと思った。

そういった変化も、現地の人と話していることが理解できないと生まれなかった。留学前までは、日常の軽い会話ならいけるだろうと思っていたが、本場は違った。日常会話でさえも、普段聞き慣れていると思っていたスピードの倍以上で話していた。最初にホストファミリーの方と話したときは what...?の質問も yes.とうなずくことしかできないほど緊張してしまい、不安でいっぱいだった。しかしホストファミリーは私達に分かりやすいように丁寧に話して下さり、だんだんと会話ができるようになっていった。それと同時に、自分の言いたいことを伝えたいという気落ちも強くなっていった。自分ではしっかりと発音しているつもりでも全く通じないことが多くあり、自信を失くしかけたことも何回もあったが、優しく聞いてくれる現地の方々に救われ、自分から話しかけることもできるようになった。まだまだ現地のガイドさんの話は分からないことの方が多くあったが、この留学で、確実に耳が英語に慣れたと思う。

こんなにもたくさんのことを吸収できたのも、たくさんの人たちに出会うことができたからだ。遠藤先生・志村先生・添乗員の遠藤さんや、現地で4日間案内をしてくれた Kassiさんを始め、プレゼンの手伝いをしてくれた現地の高校生やホストファミリーつながりで友達になった同世代の子など、様々な人と知り合うことができた。特に一緒に渡米した20人は、私を成長させてくれた大切な仲間となった。最初の事前学習会では、みんなが互いに敬語を使い、一定の距離感が生まれていたが、8日間の留学を通して、新たな人間関係をつくることができた。ただの友達ではなく、ともにアメリカで学んだ、かけがえのない仲間となった。

こうした様々な経験が、「世界に対する考え方」に変化をもたらしたのだと思う。世界には色々な人が自分たちとは全く異なる形で生活していながらも、共通した問題を抱えてい

る。今回の留学では、お互いの立場から意見交換をしたことで、解決策を考えることができた。いつかそれらを行動に移せる日がくるように、一回り成長させてくれたこの留学を将来に活かしていきたい。

そしてまた、アイオワを訪れたいと思う。



初めての留学を終えて

甲府西高等学校 2年 東家 未夢

私は、このプログラムに参加させてもらえて、たくさんのことを学び、たくさんの貴重な体験ができた。

長いフライトを終え、デモイン空港に着くと、私達を受け入れてくださったホストファミリーの方々が迎えてくれた。そこで私は、自分のホストファミリーに出会った。優しいような2人で、安心したのを覚えている。ホストファミリーとの会話の中では、聞き取れる英単語が少なく、電子辞書で必死に調べ、会話についていこうと頑張った。自分から、～ですか？と聞こうと、知っている英単語を並べたが、通じるのは3回に1回くらいだった。その分通じた時はすごい嬉しかった。学校の英語の授業だけでは、会話は十分にできないことを知ったので、話すことを重視した英語学習も頑張ろうと思った。いろんな所へ連れて行ってくれたり、優しい英語で話してくれたり、美味しいものを食べさせてくれたホストファミリーには、本当に感謝している。

アイオワ州に滞在して、気づいたことがいくつかある。

1つ目は、アメリカは高齢者に優しい国だということだ。ショッピングモール、スーパーは、どこも自動ドアだったし、空港では、足が悪い人を運ぶ車のようなものを使っていた。日本、特に山梨においては、障害者への配慮は不十分だと思う。平気で、点字ブロックの上に止めてある自転車をよく見かける。私たちができる身近な取り組みをしていきたいと思えた。

2つ目は、アメリカの人は自分の意見をしっかりもち、かつ、それを主張できるということだ。プレゼンをした時、質問が多く飛び交った。日本では滅多に見られない光景だった。驚いたと同時に、日本の授業体制もこうであるべきだと強く感じた。私は、学校の授業を受けていて、ここはなんでこうなるんだろう、といった疑問が生まれる。しかし、その疑問を誰に聞くこともせず、そのまま放置してしまう。これからは、先生や友達に聞いて、疑問を疑問のままにはしないようにしていきたい。

3つ目は、アメリカの人はフレンドリーだということ。例えば、スーパーに買い物に行ったら店員は Hello.How are you?と話しかけてくれた。すれ違う人も目が合うとにこっとしてくれる。そんなところがすごい好きになった。日本での、普段の生活で、誰にでも優しい心を持ち接していきたいと思った。

4つ目は、家族の在り方の違いだ。一週間のホームステイの間、私はホストファミリーがハグしているところを見て驚いた。娘さんが出かける前にハグをしていたのだ。日本の家族は、愛情表現をあまりしない。しかし、アメリカの家族は積極的に行っていた。アメ

リカの文化に触れられ、また、日本文化について考え直すきっかけともなった。

私たちの班は、山梨とアイオワの農業について調べた。事前学習を通じて、知識を増やしていき、考察できた。単に比較するだけでは、農業規模や、環境が全く異なるのでうまくできず苦戦した。しかし、実際に現地に行き、目で見て話を聞いて、現地の学生や先生に手伝ってもらいながら、内容を修正し、良いプレゼンができたと思う。

アイオワ州で過ごした一週間は、あっという間だったけれど、毎日が内容の濃い、充実した日々だった。この留学で出会えた仲間を大切に、関わってくれたすべての人に感謝して、”グローバル人材”の一人になれるよう、努力していきたい。



アイオワの地を踏んで

甲府西高等学校 2年 古屋 有輝

夏休みに入りすぐ、7月26日私たちは山梨のプロジェクトでアメリカにホームステイをしに行った。8月2日までの8日間で期待と不安を抱えて出発した。そして私は大きく3つのことを学んだ。

1つ目は今回のプロジェクトの目的でもあるアメリカと山梨の農業の違いである。アメリカの農業は規模が山梨と比べ物にならないほど大きくて、農業方法も少し違っていた。ホームステイ5日目にはアイオワで一番大きいとされる畑に行った。そこは聞くところによると20キロ平方メートルあるらしくて、そんなにも大きい畑にどうやって水をあげるのかを質問すると、水は基本的にはあげずに雨を待つらしい。しかし、最近は雨が全く降らずに困っていると言っていた。トウモロコシに似ている種の植物はそんな環境で生きていくために根を6メートルも伸ばして水をできるだけ多く得る工夫をしていた。またトウモロコシは3種類あって食用、農業用、ポップコーン用である。ポップコーン用があるのは初耳で驚いた。それに対し山梨は畑の面積が狭くて点々としている。作っているものも果物が多く山梨の土地に合ったものである。雨もアメリカと比べると多い。しかし山梨の農家は人手不足で困っている。高齢化が進み農家の人も若い人を欲している。今では外国人労働者を迎え入れて少しその問題を改善し始めているが、まだまだ解決までにはほど遠い状況である。アメリカは大きな機械を導入しているためそのような問題はないらしい。

2つ目は食の違いである。何もかもが大きくて食べきるのが大変だった。ジュースも日本とは違ってグラスの大きさはもちろん一度頼むと何度でも頼めるシステムに驚いた。それはどのお店にもあって日本との文化の違いを感じた。味は基本的に濃くて、パンなどはあまり食べないのだと思った。食事をしている時間も日本より短くて談話をしながらゆっくり食べるというよりは、黙々と食べる感じだった。また、お店の店員もとても親切でグラスの中身が無くなるとすぐに新しく注いでくれた。日本人とわかると比較的優しい英語を使って話しかけてくれて、多少英語を間違えても優しく聞いてくれた。ジェスチャーも多用したりして丁寧にメニューの説明をしてくれた。

3つ目は文化の違いである。日本人には無いフレンドリーシップを持っていて一度あいさつを交わすとそれで友達成立。すぐに現地の高校生と友達に成れた。また自主性を持っていて他人の意見に流されないでしっかり自分の意見を持っていた。これは日本人にはないものである。知らない人とも友達のように話しかけてコミュニケーションをとっていた。以上よりアイオワと山梨には違う面がたくさんあってそれぞれ違う問題を抱えていることが分かった。人も日本人にはない面があって、良い面、悪い面があったが新しい刺激を受けてたくさんの発見があった宝物のような8日間だった。



夢のはじまり

甲府東高等学校 2年 仙洞田 朋子

私は、海外への憧れや自分の視野を広げたいという漠然とした理由からこのプログラムに応募した。

事前学習会

事前学習会では、留学の目的をはっきりさせることができた。誰かと会話をしたり、人前でプレゼンをしたりする時、「伝えた」ということよりも「伝わった」ということのほうが大切であり、それには情熱を持つことが必要だと感じた。また、社会課題について班のみんなと協力して調べることは、知り合いがいなかった私の不安をなくし、アイオワや山梨を知ることのできる充実した意義のある時間であった。

留学中のプログラム

どのプログラムも私にとって実りあるものとなった。現地の方々とのディスカッション、老人ホームへの訪問、現地の学生とのプレゼン準備などは、事前学習で行った英会話の授業が役に立った。しかし、耳が慣れるまでに時間がかかり、質問の内容が聞き取れないことも多々あった。農場訪問は、楽しみながらアイオワの歴史や産業について学ぶことができ、社会課題の解決へのヒントを見つけることができた。また、英語が聞き取れなかった私のために簡単な言い回しや文に言い換えてくれたりゆっくり話してくれたり、全てのプログラムにおいて現地の方の温かな思いやりを感じることができた。

ホームステイ

私のホームステイ先はホストマザーひとりだったが、近所の家で食事に招待されたり農場のパーティーに招待されたりと、沢山のひとと触れ合えるようにと計画してくれていた。ホストマザーは以前日本に住んでいたこともあり、私が話を理解できないと、日本語を使って説明もしてくれた。私はそんな彼女に出会って、将来、様々な言語を習得し日本と他国をつなぐことのできる人になりたいと思った。

スーパーやショッピングモール、ピクニックや湖など時間いっぱいたくさんの場所に連れていってもらい、おいしい食事やすてきな部屋、私の憧れていた海外での生活を目一杯体験させてくれた、そんなホストマザーには感謝してもしきれない。ホストマザーはもちろんのこと、このプログラムで出会った人達とはこれで終わりではなく、これがはじまりで大事な友人として関係を築いていきたいと思っている。

この留学に参加することができ、海外への漠然とした憧れはいまだ漠然とはしているが最初の一步を、この様に充実したかたちで踏み出せたことについて、両親、ご指導頂けた教育委員会の先生方、ホストマザーをはじめ現地の係わっていただいたすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



留学を終えて

甲府昭和高等学校 1年 中込 ひかる

- (1) 私は社会課題についてあまり興味のない人間でした。しかし、この留学プログラムに参加することで私の考えが大きく変わりました。山梨では農業が盛んです。アイオワ州も山梨と同じように緑豊かで、農業が盛んなことを目で見て学ぶことが出来ました。しかし、アイオワ州に実際行ってみてわかること、それは若者の数が少ないのではないかということでした。山梨と同じように、農業の後継者が足りていないのでは。そう感じました。山梨もアイオワ州も農業で発展していくためには、どうすればいいかを現地でしっかり考えることができたと思います。日本に帰ってきてから、様々なニュースに関心を持てるようになり、私はアイオワ州に留学に行ってきたと思いました。また、コミュニケーション力も高まったと思います。私は日本語でも、自分の思っていることをうまく伝えられない人です。そんな私が日本語も通じない場所に行って生きていけるのか、少し心配でした。実際にアイオワ州に行くと、英語しかない環境ということの大変さを実感する毎日でした。何を教えてくれているのか全然わからなくて、自分の英語力のなさを痛感しました。私は緊張しながらホストファミリーに自分の知っている簡単な単語を並べて質問してみると、優しく答えてくれました。そのとき、コミュニケーションをとれることの楽しさや幸せさを感じることができました。この感情は、日本にいたら感じることはできない素晴らしい体験だと思います。普段、学校で習っている英語はそのとき理解していても、実際に伝わらなければ意味はないのだと思うことができました。そして、問題を解決する力もつけることができたと思います。ホームステイではどんなことも自分で考えて行わなければいけない環境にいて、その中で、自分がどうすべきかを判断することができたと思います。いつもは親の判断で取り組んでいることも、自分が決めてやるとなると、責任を負うという感覚を持てるようになりました。
- (2) 事前学習会では、プレゼンテーションのやり方、人に自分の言いたいことをどう伝えるか、ということをおぼえました。今回教えてもらったことは、どこにいても、だれが相手でも使うことのできるものなので、今後の人生に生かしていきたいと強く思います。Don't be shy.という言葉をおぼれず、生活していきます。アイオワ州に行ってみてからは、人口流出を防ぐため、農業の後継者を増やすためにどうすればいいかをグループの方と考えました。現地に実際に行くことによってわかることから解決策を考えることができたと思います。ホームステイでは、アイオワ州の方の優しさを感じるすることができました。私たちが楽しめるように様々な場所へ連れて行っ

てくれたり、困っていたら分かりやすい英語で声をかけたりしてくれました。私も、そんな優しい人間になろうと思える留学でした。



留学を終えて

甲府昭和高等学校 2年 宮川 唯吹

(1)私は今回アイオワへの留学を通して、山梨県の社会課題について考える機会をもらい、山梨県の社会課題は意外と身近なもので私にも関係するものだと知った。もともとは山梨県の社会課題には何の関心もなかったけれど、若者の人口流出や頭脳流出は私たちのような若者に関係するもので、深く考えていかなければならないと思った。そして、今回のようにどのようにしたら人口流出に歯止めが利くかを考えた経験を大切に、これから意識的に社会課題について考えていきたい。コミュニケーション能力については、人見知りを克服したかった私にとって、日本語が通じない環境に身をおいた事はコミュニケーション能力を磨くにはうってつけだったように感じる。日本語が通じないため私はいくつか工夫をした。たとえば、私の発した英文が伝わらなかったときには自分のわかる単語とジェスチャーを織り交ぜて伝えるようにしたこと、表情豊かにコミュニケーションをとるようにしたこと。そうした工夫から伝えようとする気持ちが伝わって相手も真摯に耳を傾けてくれることがうれしく人と話すのが楽しいと感じたため、私のコミュニケーション能力の幅が広がったように感じた。留学中ホストファミリーにキャピトルなど様々なところへ連れて行ってもらった。その中で、ホストファミリーのアクティブさに驚かされた。彼らは、好奇心が旺盛で、やりたいと思ったことを実践する行動力を持っている。加えて、生活の中にユーモアがあり柔軟な発想力を持っていた。日本人は何かに取り組むときに、できない理由を探してしまうように感じるが、アイオワでは、できない理由を探すより実践するための方法を考えている。そうした頭の柔軟性や、考えの異なる人との意見交換や協力が問題解決には必要であると感じた。そして、私も今後そういった能力を培っていきたい。

(2)事前学習会は英語のちょっとしたウォーミングアップからプレゼンに使う資料の作成まで本当にたのしくできた。最初はグループで話し合ったりすることは人見知りな私にとって抵抗があった。しかし、回数を重ねていくごとに友達とも仲良くなり、プレゼンの資料作りもスムーズに進んだ。留学中もアイオワの社会課題を見つけるために様々なことに目をおいた。キャピトルやリビングヒストリーファーム、マコーリーテラスなどを訪れ、実際に私が思っていたアイオワのイメージとは異なり、確かな情報を知ることができ、とてもよい機会だった。また、ロサンゼルスとの違いははっきりとしたものであった。アイオワの穏やかな雰囲気とは違い、犯罪が日常的に起こっていることを聞き、常に緊張して歩いた。私の想像していたアメリカとは違い驚いたが、新しいことを学ぶいい機会となっ

た。ホームステイではホストファミリーがたくさんのことを体験させてくれた。その体験からアメリカの文化や生活を感じることができた。毎晩マッシュマロパーティーを開いてくれたり、夜景を見せてくれたりとアクティブで一緒に行動していてとても楽しかった。別れはとても寂しかったけれど、それだけ充実していたのだと思う。

今回の海外留学は私を変えるととてもよい機会になった。事前学習で先生たちがおまじないのように言っていた「Don't be shy. Don't be afraid of making mistakes.」は今後私のモットーになるだろう。一緒に行った20人のこと、アメリカで学んだたくさんしたこと、そしてアメリカでできた友達のかことは決して忘れはしないだろう。今回は8日間という短い時間だったが、1年またはそれ以上の長期の留学もしてみたい。そしてまたアイオワに戻りたい。



報告書

甲府昭和高等学校 2年 望月 愛

1.私は今年の夏に中学生の頃から憧れているアメリカに約1週間行くことができた。留学前は、田舎のアイオワ州ではなく都会のニューヨーク州に行きたいと思っていた。しかし、実際行ってみるとショッピングモールなどもたくさんありとても良い州だった。

社会課題について私たちの班は「農業の法人化」について興味を持った。アイオワに行き現地の学生とスライド資料を作る予定だった。しかし、風邪を引いてしまい参加できずとても残念だった。その原因は機内の空気が乾燥していたからだ。次回旅行する際はマスクを持っていくようにしたい。

コミュニケーション能力について、変化があったと思う。その理由は、ホストファミリーと英語のみの生活だと考えられる。最初は文法や発音があっているか不安だったが恥ずかしながらコミュニケーションをとることができた。しかし上手く伝わらないこともあったが別の表現で言うと通じるまで丁寧に聞いてくれ嬉しかった。後半になるとファザーがYour English is goodと言ってくれ自信がついた。

2.今回の留学前の事前学習では社会課題について考えるということで難しかったが班員と協力しながら山梨県とアイオワ州の共通課題を見つけることができた。また、ALTの先生や仲間とのロールプレイで様々なシチュエーションを想定し、留学前に実践できたので現地でとても役立った。

アイオワ州では様々な場所の見学に行くことができ、現地に実際に行かないとわからないことが多く学べてとても良い経験となった。しかし心残りがひとつある。それは、見学地の説明は英語のみで日本語訳がなかったので全く聞き取れず内容理解ができなかったことだ。そこで私の英語力のなさを改めて実感した。

今回はホームステイということでホストファミリーとたくさん交流することができた。私のホストファミリーは4人の子供と父、母の6人家族だった。私は3歳のパイパーと5歳のケイトと共に過ごすことが多かった。庭でトランポリンをしたり、一緒に映画を見たりするなどとても有意義な時間を過ごすことができた。



グローバル人材育成プログラムを経て

甲府昭和高等学校 2年 山田 実穂

留学前と留学後では私自身大きな変化があったと思う。一つ目、社会課題に対する関心は行く前に比べると明らかに変化したと感じる。似たような社会課題を持つアイオワの年齢の近い学生達と真剣に話し合い、考え、さまざまな意見を聞くことによって、関心が大きくなっていった。二つ目、コミュニケーションの力は、現地で過ごしている間に日々少しずつ力がついてきているのがわかった。最初、アイオワに来てすぐの頃はホストマザーとも話すことが出来ず、話しかけられてもうなずいたり、首を振ったりするだけだった。しかし、最終日には、一緒に社会課題を考えてきた現地の学生達と恋の話や冗談を言い合えるようにまでなっていた。これは、毎日たくさんのいろいろな人のところへ連れて行ってくれたホストマザーのおかげだと思う。三つ目、問題を解決する力に変化はあった。現地の学生の力が大きく、その学生のおかげと言っても過言ではないのだが、異文化圏に暮らす学生の意見を聞くことによって、自分たちの班だけでは思いつくことができないようなことも考えることができ、視野が広がり違う視点からも課題をみることで問題解決力に繋がったと感じる。

体験を通して感じたこと

事前学習会は、学校で言う総合的な学習の時間とコミュニケーション英語を混ぜたようなもので初めは憂鬱に感じてしまう面もあった。しかし、出発日が近くなっていくと同時に楽しくなっていき、もう終わってしまうのかと感じるようになった。いろいろな学校から学年も違う子も多くて、自分の班の子以外とはみんなあまり話さないのこのメンバーで大丈夫かなとも思っていたが、帰国時にはみんな仲良し過ぎて逆に心配になった。留学中のプログラムについては、少し忙しすぎるかとも思ったが、それくらいがいいのかもしれない。たくさんの場所を案内してもらえて、とても楽しいプログラムだった。しかし、説明が英語かつ長いので、頭の中で翻訳を考えているうちに話が進んでしまい、最終的に何を言っているのかわからないし、ものすごく疲れる日々が続いた。意見を求められた際に、全員黙ってしまう場面が何度もあり、日本人の悪いところだと思うのと同時に何も言えない自分が悔しかった。恥ずかしいから言えないのではなくて、自分の英語に自信が無く、伝わらないのが怖くて話せなかった。改めて、日本人はシャイだと実感した。このシャイ具合が恥ずかしいし、本当に直したいと思った。ホームステイに関しては、最初ホストファミリーの情報を知ったとき、ホストマザーしかいないと知り、正直残念に思ってしまった。しかし、実際に暮らしてみるとどの家よりも充実していて楽しかった自信がある。子どもや旦那さんがいない分すべての時間を私たちの為に使ってくれた。近所にもたくさん連れて行ってきて、日本では絶対にできないような体験をさせてもらえて人生の宝物と

なった。



グローバル人材育成留学プログラム

身延高等学校 2年 藤田 梨子

(1) 社会問題に対する関心の変化

インターネットで調べた、アイオワ州の漠然とした情報しか知らなかった私は、実際にその土地へ行き、初めて疑問が上がった。私の住んでいる地域とは違い、スーパーマーケットや雑貨店、ファストフード店など、お店が沢山あるのに、どうして人口が減少しているのか。現地の方の話を聞く場でその原因が分かり、山梨との共通な課題点を見つけられた。そして、どのように解決していけば良いのか、考えを聞くこともできてよかった。

コミュニケーション能力の変化

空港からホームステイ先に向かう車の中、ホームステイ先の男の子が沢山話しかけてくれた。最初の会話ですら、ネイティブな英語を聞き取ることができなかった私は、5日間のホームステイ中、なかなか家族の会話に入ることができなかった。そして、私の思い描いていたものと違い、自分の英語力の無さを実感した。どこ行きたい？何買いたい？と聞かれても自分の考えを伝える事ができず、コミュニケーションをとることの難しさを感じた。ただ、少し聞き取った単語から想像して、何かしらの表現をすることも大事だと知った。

問題を解決する力の変化

特に、現地の学生との交流では、どんな解決策にするのか決めてどの様に解決していくのか、すごくスムーズな話し合いができた。テーマを農業人口の減少から、どうして山梨は人気がないのかといった内容に変更し、山梨の良いところを沢山探した。悪い所を探すのは簡単だが、良い所を探すのは時間がかかった。探してみても、山梨には良いところが沢山あると再確認する事もできた。

(2) 事前学習会

グループ4人が取り上げたそれぞれの課題をあげて、その中からどの課題に着目するのかを決めた。人口減少のデータを探し、計算し、グラフにする。アイオワ州の農業の画像を探し、パソコンに取り込む。その日に出来なかったことは、LINEのグループを活用する。それぞれに役目があって、スムーズな活動が出来た。

留学中のプログラム

リビングヒストリーファームでの実地調査ではアイオワ州の、時代ごとの家の作りを見学した。家の中にはその年代にあった服を着た方がいて、家の説明をしてくれた。徒歩での移動もアイオワ州の自然をいっぱい感じられた。また、現地の方の話を聞いて、アイオワ州の持つ課題への取り組みや、その成果などを聞くこともできた。

ホームステイ

4日目の朝、初めて家の近所を歩き、青い空と、太陽の光、緑をいっぱい感じてすごく気

持ちが良かった。リスが木に登っていくのを目の前で見て、癒された。夜になると、お父さんに呼ばれて全員が集まる。全員が椅子に座ると、机の上にはゲームが用意されてる。サイコロのゲームをする日もあれば、人生ゲームをする日もあった。家族みんなでゲームをしたことのない私は驚きながらも、みんなと笑い合いながらゲームを楽しんだ。



Precious Family

身延高等学校 2年 山下 莉子

(1) 留学前と留学後の自分自身

社会課題に対する関心の変化

留学する前、私は何も知らないアイオワ州についてひたすら調べました。そこで分かったのは、アイオワ州も山梨県も農業において後継者が不足しているということでした。同時にどちらも都市部への人口流出が大きく関わっていることもわかりました。

実際行ってみて気付いたことは、山梨は畑を通りかかれば、たいてい農家の方がいるけれどアイオワはそうではないということ、また、Farmers Market というイベントでは牛や馬、ヤギなどが展示されているが、幼い子が多く自分たちのような中高生が少なかったため次世代を担う若者に農業の魅力を伝えられていなかったことです。

留学前とは違い農業に対する考え方も変わり、主に中学・高校を対象に取り組みを行っていくのも一つの解決策だと感じました。

コミュニケーション力の変化

私は初対面の人とでも気軽に会話はできますが、言語が違うということで最初は自分でも驚くほど緊張していました。そのため自分から話しかけるなんて出来ませんでした。しかし、話していくうちにお互い打ちとけ合い最初のホストファミリーとの交流では自分から話しかけることができました。相手が言った英語を聞き取ろうとしてよく聞くようにしていたので、以前には無かったコミュニケーション力に必要な“聴く力”が身に付いたと思います。

問題解決力の変化

問題に対して意見を述べたり考えたりする機会がありましたが、質問も出来なかったし、ふられないと自分の意見も言えませんでした。事前学習会では意見が活発に出ましたが、アイオワでは聞き取ることに夢中になり意見どころではありませんでした。ですが、相手の言ったことをいち早くメモ出来たのは成果だったと考えます。

(2) 体験を通して感じたこと

事前学習会

全く知らない同年代の学生で、しかも初対面なのにいきなり英語で話すのはとても緊張しました。でも逆にそれが打ちとけ合えるキッカケでした。社会課題について話し合っていくともうすごく楽しくて団結力も深まりとても良い経験でした。“Don't be shy!” が会話の勇気になりました。

留学中のプログラム

自然を生かした活動だったり話し合いだったので、英語好きの自分にはとても楽しく学ぶことができました。発表については受験英語を学んでいる自分たちの発表原稿だと伝わらない所も多々ありました。だから本場の英語にふれることができ、新鮮でした。

ホームステイ

ホームステイは言葉に変えられないほど最高のものでした。家族にも恵まれ友達にも環境にも恵まれ世界で一番の幸せ者だと実感しました。生きた英語にふれながらたくさん学び新しい大切な家族がもう一つできました。自分はこの家族と一緒にいった仲間が大好きです。



留学を終えて

都留興譲館高等学校 2年 南條 さくら

社会課題に対する関心の変化

私は農業従事者の減少という社会課題に関心を持っていたのですが、今回のプログラムによって、さらに関心を持つようになりました。その理由は、現地の高校生と一緒に社会課題についての発表のために話し合い、ネイティブの意見を聞いたことで、事前学習ではわからなかった現在のアイオワについて学ぶことができ、実際に農作物などを見て農業を肌で感じる事ができたためだと思います。

コミュニケーション力の変化

私は自分の高校からは一人で参加し、積極的にコミュニケーションを取ることが苦手な性格なのでとても不安だったのですが、コミュニケーションの力はとても上がったのではないかと思います。その理由は、事前研修で多くの他校生と話す機会がたくさんあったり、ホームステイ先ではわからないことや聞きたいことがあったら、積極的にホストファミリーに聞くことができたりしたからです。

問題を解決する力の変化

私は今回のプログラムで問題を解決する力が上がったと思います。その理由は、家族と離れ、言葉のうまく通じないホームステイ先で、ホストファミリーとの会話で聞き取れなかったことがあっても、恐れずに積極的に何度も聞いたことで、精神面も強くなったからだと思います。

事前学習会について

事前学習会をしたことで社会課題について他の人の意見も取り入れることができたり、海外での緊急時の対処法やホストファミリーによく聞かれる質問などを先生方に教えてもらったりすることができました。そして、このプログラムと一緒に参加した皆との交流も深められたため良かったと思います。

留学中のプログラムについて

アイオワの歴史や山梨との繋がりをとても楽しく学ぶことができ、自分にとって非常にいい経験になったと思います。そして、ホストファミリーと丸一日交流を深める日があったのでとても仲良くなることができ良かったです。

ホームステイについて

最初にホストファミリーと会ったときには、とても緊張し、話し掛けることができず少し不安な部分もあったのですが、子どもたちと一緒に遊んだり映画をみたりしている内に、どんどん打ち解けることができました。今回のプログラムが終わった後も SNS で繋がることができ、強い絆ができたのだと感じました。そして、実際に過ごしてみないとわからない海外の生活や文化を肌で感じる事ができ、夢のような時間を過ごし、非常にいい経験

になりました。ずっとホストファミリーとの交流を続け、機会があったらまた会いに行きたいです。



留学プログラムの報告

甲陵高等学校 1年 酒井 亮豪

社会課題に対する関心の変化

これまでは、山梨県の課題に対して山梨県民としての主観的な視点でしか問題点を見ることができなかったのですが、今回の留学で山梨県から離れることで広い視野で問題点を見ることができるようになりました。

コミュニケーション力の変化

自分のコミュニケーション能力が上がったと思います。事前学習時には、同じ学校から参加する友達がいなかった僕が留学プログラム後には同じ目標を持つ新たな友達を作ることができました。同じ目標を持つ人との会話は興味深い話ばかりでした。

海外の人と話す中で言語の違いという壁はありましたが、純粋に相手のことを知りたいという気持ちが勝り、自然とコミュニケーションが取れていました。コミュニケーションとは相手のことを知ることなのかもしれないと思えました。

問題を解決する力の変化

今、実際に問題解決力で変化があった実感はないのですが、コミュニケーションや英語の壁を乗り越えたことで、これから変化がやってくるのではないかと思います。

事前学習会について

事前学習会で学んだことは、留学プログラム参加していた方々の問題意識が高かったことです。一つの課題に対し、皆様々な意見を持っていました。グループになりディスカッションをした際には、常に会話が途切れなく驚きました。

留学中のプログラムについて

アイオワ州へ行き、気が付いたことは若者を州に集めるため既に多くの取り組みが施されていたことです。具体的にどのような取り組みがされていたかというと、野球、ラグビー、サッカー、のスタジアムや、コンサートホールなど様々な建物が建築されていたことです。若者に、一流のプレイや作品を体感できる場所を提供するとともに、挑戦の場を与え、彼等に魅力ある街づくりを積極的にしていた気がしました。その結果、中心地のデモインには若者を中心に人口が増えていて活気が感じ取れました。しかし、それが州全体に行き渡っていきなくデモイン市内を少し外れると事前学習で調べていた通り過疎化の進んでいる街並みがありました。

ホームステイについて

ホームステイではホストファミリーが様々な場所へ連れて行ってくれたり、実際にアメリカ人としての生活をしたりする中で日本との文化の違いを肌で感じることができました。しかし、ホストファミリーとの英語でのやりとりはホームステイの間ずっと大変でした。特にリスニングの方が話すよりも大変でした。スピーキングは文法通りの英語を話せなかったり、言葉につまったりしましたが、こちらの気持ちを伝えられたのか、ホストファミリーが文脈やジェスチャーで内容を理解してくれたので予想していたほど困ることはありませんでした。しかしリスニングの方は学校の英語とは全く違い、ネイティブの英語に困ることが多々ありました。しかしホストの方がそれを理解してくれ、分からないときには嫌な顔一つせずわかりやすい英語で言い直してくれました。帰って来て自分のホームステイを振り返ると英語に困ることはほとんどなく、充実したホームステイになりました。

